



駅から、街から、未来をつくろう。

2019年2月5日

東日本旅客鉄道株式会社

竹芝ウォーターフロント開発計画の計画地の名称が「WATERS takeshiba」に決定！ 文化・芸術を核とした、水辺を活かした複合型まちづくりを推進します

- JR 東日本グループは、グループ経営ビジョン「変革 2027」のもと、「ヒトを起点とした新たなサービスの創造」に取り組んでおり、「CITY UP!」をスローガンに、多様な魅力あるまちづくりの実現に向けて竹芝ウォーターフロント開発計画を推進しています。
- 本計画は“つぎの豊かさを生み出すまち”をビジョンに掲げ、文化・芸術の発信拠点の機能を核とし、更に、竹芝の地域資源である水辺を活かしたまちづくりの検討を行っています。
- このたび、竹芝ウォーターフロント開発計画の計画地の名称を『**WATERS takeshiba(ウォーターズ竹芝)**』に決定しました。 ※ 商標登録出願中
- 2020年4月のⅠ期(高層棟・駐車場棟)開業、2020年内のⅡ期(劇場棟)開業を目指します。
- 開発情報や開業までのイベント情報などをお知らせするWEBページを開設します。

1. 『WATERS takeshiba』のまちづくりの考え方

■文化・芸術を核とした複合型まちづくり

本計画では“つぎの豊かさを生み出すまち”をビジョンに掲げています。これまで長きにわたり劇団四季が培ってきた文化・芸術の発信拠点の機能を核に、水辺と浜離宮恩賜庭園を臨む立地環境を最大限に活かした新しいまちづくりを推進します。



イメージパース（浜離宮恩賜庭園側外観）

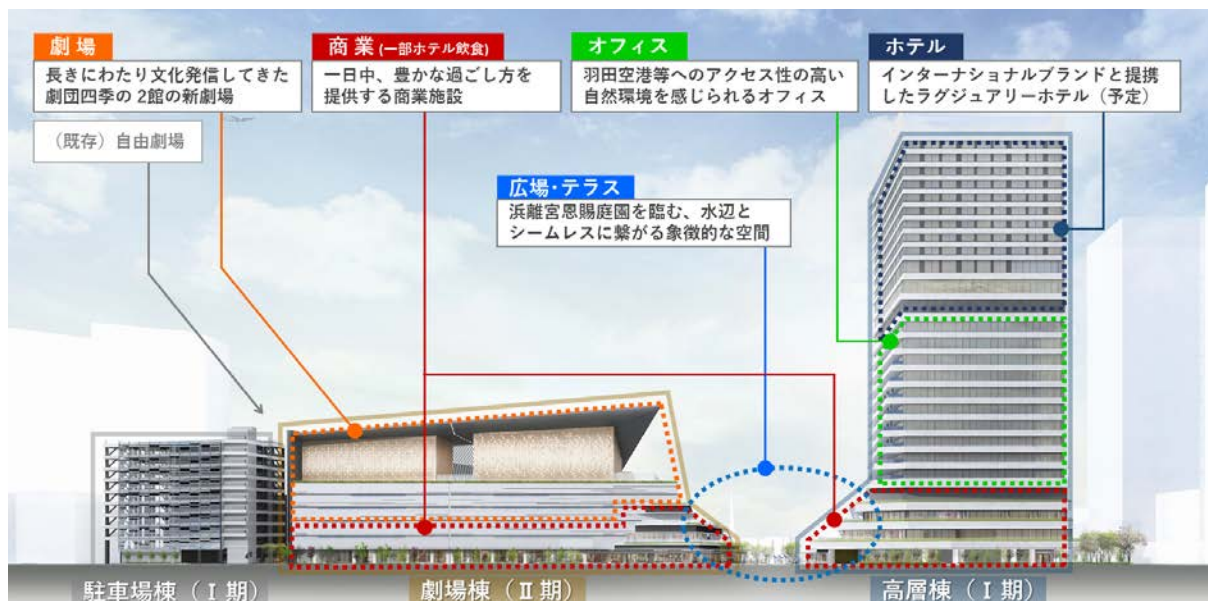
具体的には、四季劇場[春]・[秋]の2館が生まれ変わることで、『WATERS takeshiba』には、既存の「自由劇場」を含めて3館の劇場が集積されます。また、訪れた人に豊かな心地よさを感じていただくことを期待し、都心にいながらも離宮や水辺の自然環境を感じられる、パブリックな「広場」と「テラス」を配置します。各施設や「広場」・「テラス」で、訪れた人が思い思いに観劇後の高揚感に浸る、風を感じながら仕事する、景色を眺めながら食事をする、旅の合間の何もしない時間を楽しむ。このような、多様なアクティビティや文化が生まれる環境を創出することで、“豊かさ”の概念が多様化する時代にも、自然とこころが潤うような時間価値を提供します。



イメージパース(広場・テラスの様子)



イメージパース(広場の様子)

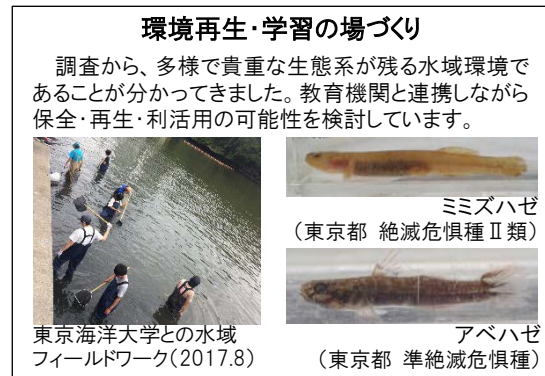


イメージパース (ゆりかもめ側立面図)

■水辺を活かしたまちづくりの検討

JR 浜松町駅は、山手線で最も東京湾(内港地区)^{※1}に近い駅です。本計画地は、JR 浜松町駅にほど近い都心にありながらも、前面に水辺や浜離宮恩賜庭園という豊かな地域資源を擁した希少な立地にあります。

本計画では、国土交通省が推進する「ミズベリングプロジェクト^{※2}」の趣旨に賛同し、水辺の立地特性をまちづくりに活かすことを目指し、「ミズベリング竹芝」として社会実験や環境調査等を実施しています。東京湾最奥部に立地する竹芝地区の活性化に向けて、一般社団法人竹芝エリアマネジメント^{※3}と連携し、関係者と協議を重ねながら、陸路と水路の高い結節性を活かした「舟運(しゅううん)の活性化」や、防潮堤に囲まれ安定した水面、多様な生態系を活かした「環境再生・学習の場づくり」、「にぎわいの創出」等の可能性を検討しています。



※1 正式名称は「東京湾に位置する 東京港 内港地区」(出典:東京港便覧 2018)。

※2 国土交通省が推進する、水辺の新しいまちづくりの活動。河川等の規制緩和と併せて、かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。

※3 竹芝地区のエリアマネジメント組織。準備期間を含め 2014 年からまちづくり活動を積極的に行っています。

2. 名称の決定 『WATERS takeshiba』

この名称は、都心にいながらも豊かな心地よさを体感できるまちを目指して、本計画における各施設(高層棟、劇場棟、駐車場棟)及び既存の自由劇場を含む、計画地の名称として決定しました。『WATERS』の複数形の‘S’には、心地よい水辺のもとに、多様な人々にとって、多様な居場所や文化・芸術・アクティビティが生まれることを期待しています。「この場所からつぎの豊かさを生みだそう」「世界の人を訪れたい竹芝をつくろう」という気持ちを込めて、心地よさが波紋のように広がっていくよう願いを込めています。

WATERS
takeshiba

名称ロゴ ※商標登録出願中

名称ロゴに込めた思い

「変わらない本質」や「都市」を感じさせるゴシック体の『WATERS』と、「文化・芸術」「波」や「自然」を感じさせる筆記体の『takeshiba』で構成しています。

3. 開業時期

高層棟及び駐車場棟は、東京2020オリンピック・パラリンピック前の2020年4月の開業を目指します。劇場棟は、それ以降段階的に、2020年内の開業を予定しています。

4. WEB ページの開設

『WATERS takeshiba』のこれまでの取組みや、開発情報、開業までのイベント情報などをお知らせするWEB ページを以下の通り開設します。

公開日：2019年2月5日 14時

WEB URL：<http://cityup.jp/waters/> (JR 東日本 NEXT10 PR サイト内)

※ 現時点での計画であり、今後、変更となる場合があります。画像は全てイメージです。

<WATERS takeshiba 開発計画概要>

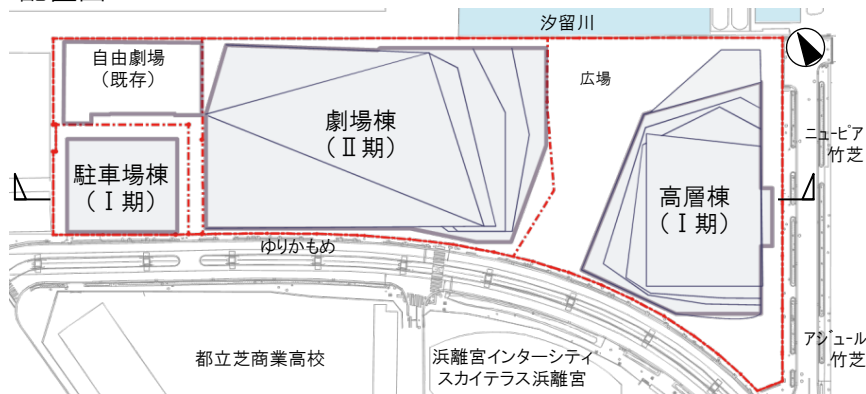
事業主体	東日本旅客鉄道株式会社
所在地	東京都港区海岸一丁目22番1他(地名地番)
用途	ホテル、オフィス、商業、劇場、駐車場等
敷地面積	約 23,000 m ²
延床面積	約 102,600 m ² (合計) 高層棟 約 62,300 m ² 劇場棟 約 28,100 m ² 駐車場棟 約 12,200 m ²
階数・高さ	高層棟 地上26階、地下2階・約120m 劇場棟 地上6階、地下1階・約45m 駐車場棟 地上10階、地下1階・約35m
施設概要	ホテル 265室(予定) オフィス 約15,000 m ² 商業 約7,800 m ² 劇場 2館(新設) 駐車場 計470台(高層棟35台、劇場棟5台、駐車場棟430台)
設計	株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所
施工	清水建設株式会社
運営会社(予定)	ホテル 日本ホテル株式会社 オフィス 株式会社ジェイアール東日本ビルディング 商業 株式会社アトレ 劇場 四季株式会社
開業予定	I期開業 高層棟・駐車場棟 : 2020年4月開業(予定) II期開業 劇場棟 : 2020年内開業(予定)

<WATERS takeshiba 配置・フロア構成>

■位置図

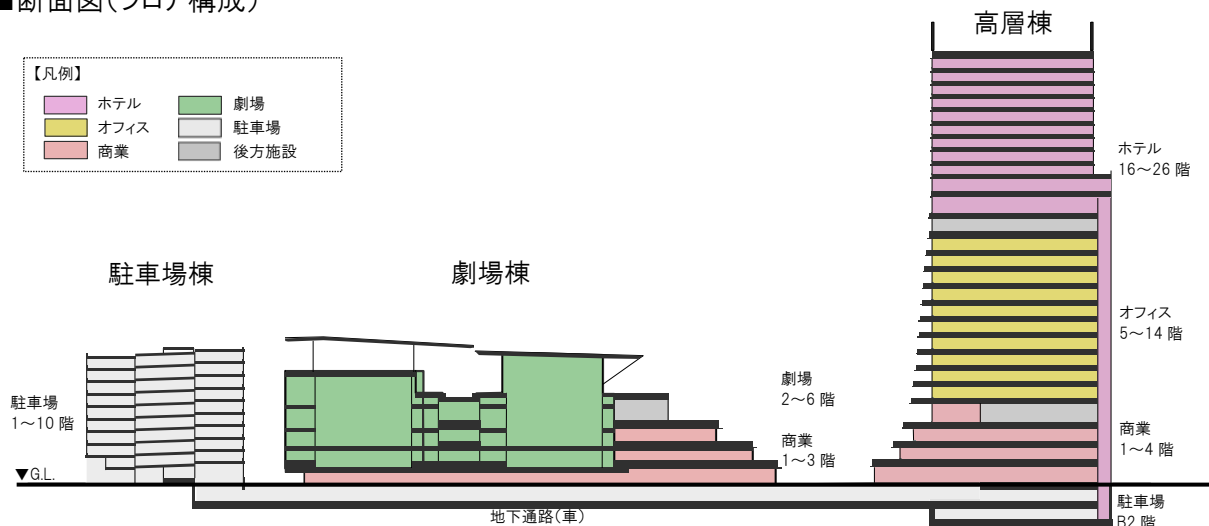


■配置図



■断面図(フロア構成)

- 【凡例】
- ホテル
 - オフィス
 - 商業
 - 劇場
 - 駐車場
 - 後方施設



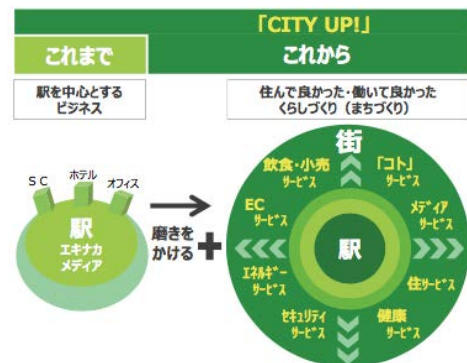
<「生活サービス事業成長ビジョン(NEXT10)」における本計画の位置づけ>

本計画は、NEXT10に掲げる「文化・芸術の発信を行い、街の価値を高める」をまちづくりの核とした大規模複合型まちづくり計画です。

「CITY UP!」のスローガンのもと、『WATERS takeshiba』や「品川開発プロジェクト」のようなまちづくり・くらしづくりを一つひとつ丁寧に積み重ねていくことで、地域の魅力向上に貢献し、東京や日本全体の VALUE UP につなげていきます。

生活サービス事業成長ビジョン（NEXT10）とは

JR 東日本グループが会社発足から 30 年が経過した 2017 年に、今後 10 年を見据えて策定した生活サービス事業の成長ビジョンです。「CITY UP!」をスローガンに、これまでの「駅を中心とするビジネス」に磨きをかけて、「くらしづくり（まちづくり）」に挑戦します。長期成長の実現に向けた「4本の柱」として、市中や当社エリア外への事業領域の拡大やオープンイノベーションなどに取り組む「のびる」、駅を中心とした魅力あるまちづくりを進める「ひらく」、地域の活性化や地域間交流の促進を図る「つなぐ」、既存事業の価値を高める「みがく」を設定し、駅の個性に磨きをかけるとともに街の魅力向上に努めます。



* 最新情報や取組みの詳細はこちらをご覧ください *

生活サービス事業成長ビジョン（NEXT10）PR サイト <http://cityup.jp/>

※ 現時点での計画であり、今後、変更となる場合があります。画像は全てイメージです。